

まちづくり交付金 事後評価シート  
国領地区

平成19年2月

兵庫県丹波市

## 様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県	市町村名	丹波市	地区名	国領地区
計画期間	平成16年度～平成18年度	まちづくり交付金交付期間	平成16年度～平成18年度		
モニタリング実施時期	-	事後評価実施時期	平成18年 9月	フォローアップ実施時期	平成20年3月

1) 事業の実施状況	当初計画どおり実施した事業	道路整備 W=5.0m・L=70m・ 地域生活基盤施設 駐車場整備 2箇所 62台収容・ 公営住宅等整備 市営住宅23戸建設
	当初計画から変更した事業 (変更した内容)	<b>【基幹事業】</b> 道路整備 L=70mをL=155mに増、 <b>【提案事業】</b> 公営住宅関連事業の追加
	変更した理由、目標・数値指標への影響等	当初基幹事業計画の中に提案事業が含まれており、基幹事業と本来の提案事業に分離した。 当初目的を更に進めるため道路整備の延長を増とした。 その他数値目標には変更なし。

2) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標		達成度			達成見込みの有無		効果発現要因
		単位	モニタリング	事後評価	フォローアップ	あり	なし	総合所見
指標1	地域活性化事業実行委員会の開催	回/年						地域の活性を目的とした実行委員会やその下部組織として若者を中心とした組織体制が確立され、活発に活動をされている。
指標2	事業実施回数	回/年						若者を中心とした組織により、あらゆる地域おこし事業を活発に活動されている。
指標3	屋内運動場(体育館)地域開放度	回/年						屋内運動場の完成に伴い、地域内の各種団体による使用が増加し、地域づくりが活発となっている。
指標4	平均年齢	歳				○		若者の定住を目的とした公営住宅の建設に併せて、地域内に民間住宅の建設も生まれ、更に地域内の平均年齢低下が進む
指標5	緊急車両通行支障区間	m						道路の整備や駐車場の整備により、通行支障区間が解消された

3) その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		数値			効果発現要因
		単位	基準年度	モニタリング	事後評価	フォローアップ	総合所見	
	その他の数値指標1							
その他の数値指標2								
その他の数値指標3								

4) 定量的に表現できない 定性的な効果発現状況	
-----------------------------	--

5) 実施過程の評価	評価項目	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
	モニタリング			予定どおり実施できた	予定していなかったが実施した	予定したが実施しなかった・できなかった
住民参加プロセス	・国領区地域おこし事業の展開 ・区独自事業の展開		予定どおり実施できた	予定していなかったが実施した	予定したが実施しなかった・できなかった	地元実行委員会等を中心に、今後も継続して地域のまちづくりを更に進める。また、国領区のみならず近隣集落とも連携し、地域のまちづくりを拡大する。
持続的なまちづくり	・国領区活性化事業実行委員会の開催		予定どおり構築できた	予定していなかったが構築した	予定したが構築しなかった・できなかった	同 上

注意 国領地域とは、旧村単位の各集落の集合体を意味し、国領地区又は国領区とは一集落のことをいう

様式2-2 まちづくり交付金の成果及び今後のまちづくり

国領地区(兵庫県丹波市) まちづくり交付金の成果概要				
まちづくりの目標	多世代の地区住民が隔てなく交流できるまちづくり	まちづくり交付金の代表的成果	地域活性化事業実行委員会の開催 (年/回)	2 (15年度) → 6 (18年度)
	地区内住民が安心して暮らせるまちづく		まちづくり事業実施回数 (年/回)	0 (15年度) → 2 (18年度)
			屋内運動場地域開放度 (年/回)	180 (15年度) → 300 (18年度)
<b>基幹事業 公営住宅整備事業</b> 国領団地 23戸、集会所 地域公園 コミュニティー広場		<b>基幹事業 道路</b> 市道路改良事業 W=5.0m L=155.0m		<b>関連事業 屋内運動場(体育館)建替事業</b> (地域イベント会場・耐震構造)
<b>提案事業 公営住宅関連事業</b> 国領団地		<b>関連事業 土地利用計画策定事業</b>		
<b>基幹事業 地域生活基盤</b> 駐車場整備事業 33台		<b>基幹事業 地域生活基盤</b> 駐車場整備事業 29		<b>関連事業 花いっぱいモデル事業</b>
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	国領区の地域づくり・まちづくりを目的に「国領区活性化事業実行委員会」や下部組織として若者を中心とした組織「進修火の鳥会」を立ち上げ、活発なる活動を繰り広げている。既にそれぞれの組織は定着化し定期的に会議を持ち、年度計画に基づき活動をされている。 今後は、国領区のみならず、隣接する国領地域内(旧村地域)の各集落や春日地域全体及び隣接する市外地域とも交流を深め、地域づくりを更に進めていく。 また、地域の活性化に向け、若者の定着化とUターン・リターンを更に進め、地域の人口増を図る。 その外、事後評価にあたり、当初から携わっていただきご指導をいただいた、県立人と自然の博物館(姫路工業大学)の中瀬 勲先生や同じ兵庫県立大学の宮崎ひろ志先生から、今後のまちづくりとして更にご指導を願うこととする。			